

# カーネギーホールでお箏の演奏

## Play of Koto at Carnegie Hall

相馬芳枝 Yoshie SOUMA

「まさか!」ということが、人生には何度かあるものである。

2回目の「まさか」が今年起こって、カーネギーホールでお箏の演奏をしたのである。Folk Festival of Japan at Carnegie Hallというイベントで、日本の文化・芸能を紹介し、観光客を誘致しようというねらいであった。

3月にお師匠さんから、「カーネギーホールに出ませんか?」とお誘いがあり、私でもよろしいのならと飛びついた。ニューヨークのカーネギーホールは音楽家の登竜門で憧れの場所であるが、建物を見たことさえない。聴きに行くことはできるかもしれないが、出演なんて夢にも見られない。本当かしらと思いつつ、特訓を始めた。私は、小学生の頃からお箏を習っていて、師範、大師範とお免許は頂いているものの、普段は落ちこぼれている。

2009年9月25日、いよいよ、本番の日を迎えた。リハーサルは本番と同じ大ホールであったが、できれば最悪のボロボロ。到着の翌日で、時差ぼけ、2日酔いのような状態であったが、言い訳は許されない。プロデューサーからは、「心が一つになっていない。高い金を払って、ニューヨークまで恥をかきに来たのか!」と叱られる。曲目は、唯是震一作曲「尺八と箏のための協奏曲第3番」。ソロは人間国宝の山本邦山氏で、私は、合奏団の一員である。本番までのわずかの間、メロディーやリズムを口ずさみ、イメージトレーニングを重ねた。気合を入れて、いよいよ本番。1楽章が終わったところで大きな拍手が起こった。さらに、2楽章、3楽章と続ける。弾き終わると、ひときわ大きな拍手が起こった。今度はみんなの心が一つになり、会心の出来栄であった。怖いプロデューサーも今度は、天井から拍手が落ちてきたと褒めてくださった。客席は5階構造になっており、2800人入りの会場が満員であることが見渡せた。

日本出発の出国手続きで、意外なことが起こった。10人の合奏団員は、同じ飛行機に乗った。10人分の楽器も手荷物で飛行機に乗せたので、手続きに手間取り、JAL搭乗カウンターの係員は、私と友人にパスポートと搭乗券を入れ違えて渡した。友達は私のパスポートを持って出国審査を受け、スイスイと搭乗口まで行ったのである。出国審査員の目はフシアナか? これなら、偽造パスポートで出入国することは簡単であろう。

第1の「まさか」は、現役時代の1991年、ノーベルシンポジウム(化学)に招かれ、90周年目のノーベル賞授賞式に出席できたことである。ノーベルシンポジウムのテーマは、「CO<sub>2</sub>の固定と削減」であった。ノーベル委員会から招待状がきたとき、私は、「私の研究は、まだ始めたばかりです。すでに立派な成果を出しておられる某教授を招かれることをお薦めします。」と断ってしまった。指導教官にお話すると、「お前はアホか! そんな時は、ハイ喜んでとお受けするものじゃ。」と怒られた。本当にアホだったが、1カ月後に再度、招待状がきたので、今度はお受けした。

なぜ、私ごときに招待状がきたのか? 遡れば、前年に工業技術院の研究をPRする講演旅行があり、そこで私がCO<sub>2</sub>の固定と利用について講演し、質疑応答の派手なやり取りをノーベル委員会の人聞いておられたことがある。さらに遡れば、その数年前に、「新しい有機合成触媒の発見」で猿橋賞を受賞していたので、私が講演旅行の団員の一人に選ばれたのであろう。

人生は、ラッキーやアンラッキーな出来事で織りなされている。誰しも、ラッキーなことの連続を願うであろう。一つのラッキーを招くには、それにつながるいくつかの事柄がある。地道な努力の積み重ねが運を引き寄せることになる。日々、よい習慣を身に付けるようにと言われるが、そのとおりであろう。



相馬芳枝 Yoshie SOUMA

神戸大学特別顧問  
工学博士  
専門は有機触媒化学  
E-mail: y-souma@kce.biglobe.ne.jp